

# 生徒が活発に活動する授業を目指して

(液晶プロジェクターを効果的に使用する研究)

小関静枝

兵庫県立三木北高等学校

## 1・はじめに

勤務校である三木北高校は普通科全日制高校で、進学希望の生徒が8割をしめる。英語の基礎力が不足している生徒が多く、特に2学年になってから学力差が大きくなってきた。英語の授業では英語と同様に訳読を中心に授業を展開してきた。授業が単調で生徒が英語を読んだり聞いたりする時間が少ないのが課題であった。

## 2・課題の設定と研究計画

- |              |                               |
|--------------|-------------------------------|
| 2004. 6 , 7月 | 授業実践（訳読式授業）                   |
| 8月           | サークル研修会、訳先渡し授業の研究             |
| 9 ~ 10月      | 授業実践（音読活動、ＩＣＴを取り入れた授業）        |
| 10月          | 研究授業1、サークル研修会による振り返り          |
| 10月～12月      | 授業実践（音読活動をさらに活発にする工夫を取り入れた授業） |
| 2005. 2月     | 研究授業2                         |
| 3月           | まとめ                           |

## 3・授業実践・振り返りと考察

(6, 7月の授業の振り返りと課題)

- ・訳に時間をとり、活動が単調。  
英語を読む量が少ない
- ・特に音読がうまくいかない。  
声が小さい
- 音読する動機付けが不十分
- 教師の指示が不十分

(授業改善の課題設定 1・・・9月～10月)

- ・訳読中心の授業からの脱却。  
訳を先渡しし、音読を多く取り入れた授業への転換
- ・授業を活性化、効率化
  - I C T の利用（教材提示を効果的に）
  - ペア活動を中心とした音読活動（音読をしなければならない状況を作る）
- ・担当教師の共通理解のために授業案を作成するとともに、生徒にも授業のはじめに趣旨を詳しく説明したプリントを配布。

授業の流れ（1レッスンを7時間配当で行う）

参考＊添付資料1（10月1日：研究授業 Lesson Plan）

1～5時間目

目標）各パートの内容をつかみ、音読によって本文を覚える

局面	時間	活動内容
復習	5	小テスト 前回のクローズテスト
語彙	10	ボキャブラリーインプット Part1,2,3用とPart4,5を準備 check 1 (E J)、Check2(J E) プリント2，3
内容把握	5 10	スラッシュリーディング プロジェクターを使用 内容に関する質問 答えにあたる文に下線を引く プリント1
音読	15	音声を聞いて確認 コンピューターで音声の速度を変えて使用 ペア読み ペアでシャドーイング
まとめ	5	次回の予告、宿題 (予習ノートの該当ページ) プリント4～8

プリント1 本文と訳を両面に印刷したもの

プリント2、3 単語、熟語をまとめたプリント

## 6 時間目

目標) 全体を読み、理解を深める。内容をまとめる。

局面	時間	活動内容
復習	5	小テスト
内容把握	10	パートのタイトル選び プリント9 キーセンテンスの並べ替え
音読 表現	15	要約文を書く キーセンテンスの中から5文を選び、文にする。 時間をみて、ペアでの評価等を行う。 モデル文を配布 プリント10
	15	要約文の音読
まとめ	5	次回の予告、宿題

プリント9

## 7 時間目

目標) 文法的な側面からの理解を深める。

局面	時間	活動内容
復習	5	小テスト
	5	教科書 comprehension

文法 演習	35	教科書 Grammar の演習
----------	----	-----------------

### (9月、10月の授業の振り返り)

1) 10月16日サークル研修会より（神戸市外国語大学玉井健教授のインタビュー）

- 授業の中で生徒との interaction が不足している。  
生徒は教師を見ずに下を向いたまま授業を受けている。  
授業の中の活動で教師が指示を直前にしているにもかかわらず、何をするのかわかつていない生徒が複数いた。
- ICTを使用した授業研究であるが、生徒との interaction は授業の根幹に関わるものである。授業以外の場も含め生徒とどう関わっていくのか考えしていく必要がある。

### 2) 授業を見た後の協議より

- 教師のしゃべっている言葉の語尾が聞こえにくくなっているところがあった。
- プリントの数が多く、生徒が整理できていないようだった。

### 3) 生徒のアンケート(10月27日実施)

- 以前の訳読式の授業がよい( 16人 )  
自分の力で訳をした方が覚えられる。(多数)  
単語、熟語は自分で調べた方がよい。(多数)  
このやり方の方が文法力がつくと思う。予習に力を入れてやらなくなつた。
- 音読を中心とした今の授業がよい( 22人 )  
自分で訳をやって間違えて、授業中聞き取れなくてそのままにしていることがあった。  
自分で訳していくのは単語、熟語が覚えられるが、長文を読む力には結びつかないと思う。  
気が楽になってゆっくり読めるようになった。以前は全文の訳を段階的にやるのではあまり効果がないと思っていた。全文をテスト前に書く宿題は全体を見直すという点でよかった。
- プロジェクターを使った授業について  
字が画面に多くて見にくかった。前の生徒が邪魔で見えない。  
音声がこもって聞き取りにくかった。音声のボリュームが小さかった。  
スラッシュを自分で入れる作業をしたが何のためにやっているのかわからない。

### (授業改善の課題設定2・11月～2月)

- 生徒との interaction を見直す。  
生徒への指示の出し方を明確にする工夫。 説明する時間と黙って待つ時間のメリハリをつける。  
授業中に顔を上げて注目する時間を作る。  
生徒理解を深める。 テスト返却時に必ず一人ずつにアドバイスをする。  
アンケートを継続して実施する。
- 音読活動を充実させる。  
課題文を選び、集中的に音読を繰り返す。課題文は十分読め、暗記できるようにする。(文全体を読む前の準備段階とする。)

シャドーイングや音読筆写など多彩な活動を取り入れる。

- ・ I C T 利用のコンテンツは音読活動を活性化させるものを作成する。  
本文を意味の固まりごとに区切ったものと音声を提示できるようにする。
- ・ 予習を効果的に行わせるようとする。  
単語と重要な文はまず自分で調べてから授業にのぞむ。 アンケートの意見を反映

\* 授業の流れ

参考資料添付資料2（2月8日研究授業・・教材が違うため予習部分はない）

添付資料3（使用したプリント）

1～5時間目

目標) 各パートの内容をつかむ。 音読活動によって重要構文を読み、暗記する。

局面	時間	活動内容
復習	5	小テスト（前回の単語と重要構文）
宿題チェック	10	予習プリントの答え合わせ（机間巡回でチェック） プリント1～5
音読トレーニング	20	1) 本文をリスニングどれくらい理解できるか確認 2) 語句のチェック 右側に意味を書かせる。わからないものは書き足しておく 3) 構文練習 音読 ペアで読む練習（シャドーイング等で5回） 音読筆写 教師が日本語を読み上げて書くor Dictation 4) 本文の内容確認 5) 本文の音読 CDを聞く 各自分で音読 CDを聞く 各自分で音読 ペアで追いかけて読む。 CDを聞く CDに音をかぶせて 読む。 6) リスニングでもう一度理解度を確認 プリント6～10
読解トレーニング	10	読解トレーニングシートを使って内容把握と答え合わせ プリント11～15
まとめ	5	小テスト予告、宿題（プリント1～5）

プリント1～5 予習ノート（Part1～5）

プリント6～10 表にPart1～5の本文と語句、裏に訳と構文

プリント11～15 読解トレーニング 本文と内容把握の問題。

6時間目

目標) 全体を読み、理解を深める。内容をまとめる。

局面	時間	活動内容
復習	10	小テスト（音読活動の総まとめ）
内容把握	5	本文の並べかえ（段落を使ったもの） プリント16
	10	要約文完成（　）の位置の違うものを配っておく。

	5	答え合わせ 相手の読むのを聞いて答え合わせする。
音読	10	要約文の音読
内容理解	5	本文に出てきた歌詞でどれが一番好きか。なぜか。 (作文をする)
まとめ	5	次回の予告、宿題

## 7 時間目

目標) 文法的な側面からの理解を深める。

局面	時間	活動内容
復習	5	小テスト 等
	5	教科書 comprehension
文法 演習	35	教科書 Grammar の演習 (あらかじめ問題をやらせておく等は担当者の裁量で)

### (11月～2月の授業の振り返り)

#### 1) 12月9日実施生徒アンケート

- ・ 以前のように自分で全訳をやった方がよい。(9名)  
書いた方が考えるから。自分でやった方が頭に入る。
- ・ プリント(重要な単語、熟語、構文を調べてくるもの)で予習をやった方がよい。  
(29名)  
ポイントがわかりやすい。入試の力をつけるには訳より読む力をつけたい。  
全文を訳すより、大事なところに時間をかけてやりたい。  
訳をするほうが覚えられると思っていたけど毎回単語や本文を読む方が覚えられる。
- ・ 授業の進め方についての要望  
音読に力を入れすぎのような気がするのでもっと訳や文法に力を入れてほしい。  
もっと単語練習に力を入れてほしい。

音読をもっとやりたい。音読は続けてほしい。(複数)

訳読式は授業中すごく眠たかった。今のやり方は音読をやる時間、作業をやる時間、先生の話を聞く時間とけじめがついてすごくやりやすい。  
授業中に少しづつ読んでいったおかげで自然と文が覚えられた。

#### 2) プロジェクターを使った授業について生徒のアンケート(2月28日実施)

- 文字が見にくかった。(多数)
- 音読のスピードが速くついて行けなかった。(多数)
- 長い文と短い文が同じ速度で提示されるので長い時、ついていけなかった。

音声が早くて慣れなくてついていけなかったが続けていたら覚えられそうだ。

音声が聞き取りにくかった。ボリュームをもっと大きくしてほしい。(複数)

全員で前を向いて読むのは恥ずかしい。

全員で一斉にシャドーイングをすると他の人の声が邪魔になる。

晴れた日は文字が見にくい。

#### 4・まとめと今後の課題

##### 1) 液晶プロジェクターを教室で使用することについて

よかったです：音声と文字情報を同時に提示できる。自動化して次々と文字を提示したり、音声の速度を変えることができるので多彩な活動へ結びつけられる。

板書するよりもたくさんの情報を提示することが可能。

課題：文字が見にくい席がある。天気のよい日は反射して見にくい。

音声が聞き取りにくい。(スピーカーを設置したがそれでも不十分)  
スクリーン、プロジェクター、PCなど準備物が多くなる。

継続した使用によって生徒の能力がいかに伸びたかをはかる必要がある。

##### 2) 音読中心の授業展開について

よかったです：授業にさまざまな局面を取り入れることが可能になり、生徒が活動する場面が増えた。活性化に結びついていると考えられる。

ペア活動を取り入れることで全員の生徒が活動に取り組む状況を作り出すことができた。

英語を読む、聞く回数が訳読み式に比べ増加した。

生徒も慣れるに従って抵抗なく取り組むようになった。

課題：生徒の能力をどのようにのばすことができたのか客観的にはかるものが必要。(能力テスト、模擬テスト結果等)

##### 3) 教師の意識改革について

よかったです：アクションリサーチに取り組むことで生徒との interaction という課題を得ることができた。研究授業後の講評で、教師は生徒を見ずに授業を行い、生徒も教師を見ずに授業を受けているという指摘を受けた。教え方やコンテンツなど skill に目がいきがちだったが、授業の根幹とも言える生徒との関わりをもう一度考えさせられた。

I C T を活用する授業実践においても生徒理解に基づいた interactive な授業を目指すことにはかわりはない。

授業中の指示を出すときでも一呼吸置くと生徒の顔があがるようになるなど小さな気づきが生まれるようになった。

教師の見方が変わると生徒が授業中多くの情報を発信していることに気づかされた。以前は文句にしか聞こえなかった生徒が授業中に発する言葉も指示が不十分なのか、activity が難しすぎるのかあるいは簡単すぎるのかと考えるきっかけとなった。以前はある意味で苦痛であった生徒との interaction が楽しいものであると思えるようになったのは大きな変化である。

今回サークル研修会においては授業を見学する機会を多く与えられた。民間企業の方とともにコンテンツを作る機会もあった。話し合う過程で授業のありかたを何度も考えさせられた。授業の活動を効

率よく、成果のあるものにというのは誰でも考える。しかし、今回はある活動をする場合、その活動をなぜやるのかきちんと言語化し、それによってもたらされる効果を客観的に示すことが求められることが多かった。普段経験や慣れから何となくやっていることが多いことに気づかされた。勤務校という枠を越えた取り組みで新たな視点から自分の授業を見つめることができた。

課題： 授業改善は教師である限り続くものであり、一人では十分に取り組めないものである。今回インタビューや授業研究で多くの示唆を受けることができた。多くの方の助言と協力に感謝するとともに今後もこのような学びの場が継続されることを希望してまとめとしたい。

#### 参考文献

- 金谷憲 + 高知県高校授業研究プロジェクトチーム(2004)「和訳先渡し授業の試み」(三省堂)  
玉井健・門田修平 「決定版 英語シャドーイング」(2004) (コスマピア)  
斎藤栄二 「英文和訳から直読直解への指導」(1996) (研究社)